

# 第4章

## 札幌市民族教育に関する研修会等について



「札幌市民族教育に関する研修会」は、昭和 57 年（1982 年）から今日まで行われている歴史ある研修会です。札幌市の教職員のアイヌ民族の歴史・文化等についての理解促進、指導力の向上に資する貴重な研修会です。今後も研修会の工夫・改善を図りながら、継続していきます。

【写真：平成 30 年度札幌市民族教育に関する研修会】

## 1 札幌市民族教育に関する研修会について

### 趣旨、目的 及び経緯

「札幌市民族教育に関する研修会」は、札幌市立学校教職員を対象に、教職員の指導力の向上を図るため、昭和57年（1982年）から行われている事業である。その目的は、以下のとおりである。

- ・アイヌ民族の歴史・文化等について理解を深め、指導力の向上に資する。
- ・人間尊重の教育及び民族教育の推進に資する。

本研修会は、アイヌ民族研究者、札幌アイヌ協会役員などによる講演、ムックリ製作やアイヌ文様ストラップ製作などの体験実習等、上記の目的と対象である教職員の興味・関心とを照らし合わせて研修内容・方法が練られてきた。

また、昭和59年（1984年）の「アイヌ民族に関する法律（案）」に始まり、平成9年（1997年）の「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」、平成31年（2019年）の「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」に至るまで社会の動きを鑑みた内容・方法の構成を図ってきた。さらには、「人権のための国連10年」、「世界の先住民の国際年」、「先住民問題常設フォーラム」等、世界や国連の動きも視野に入れながら、毎年、研修を継続的に積み重ねてきた。平成17年（2005年）からは、近年の参加者の年齢層に偏りが見られることを克服するとともに、アイヌ民族の問題を初任者がしっかりと認識していくことをねらい、年2回の研修のうち1回を札幌市教育センターの初任者研修の一環として実施することとした。このことにより、市内の教員があまねく研修参加するとともに、教職員として民族教育に対して継続した研鑽を積むことが可能となった。

一方、これまで59回に渡って成果を蓄積してきた本研修ではあるが、研修内容の創意工夫の必要性、参加者の横ばい傾向等の課題もあることから、これまでの成果と課題を一層踏まえ、今後の研修会の意義や価値を見つめ直し、内容の充実を図る必要がある。令和元年5月に「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」が施行され、アイヌ文化継承者の育成やアイヌに関する国民の理解の促進等を図ることが一層求められている。我が国全体で、先住民族であるアイヌ民族への人権教育の積極的推進が求められる今、本研修会の役割は大きいものと感じている。



研修会の様子（平成30年度研修会）

## 2 札幌市民族教育に関する研修会のあしあと(平成20年度～令和元年度)

### 札幌市民族教育に関する研修会の歩み

#### (1) 札幌市民族教育研修会の歩み (平成20年度～令和元年度)

回数	年度	内容・講師等
第48回	平成20年度	・講演 阿部 一司 氏 (北海道ウタリ協会札幌支部支部長) ・実践発表 ・アイヌ古式舞踊
第49回	平成21年度	・講演 阿部 一司 氏 (北海道アイヌ協会札幌支部支部長) ・実践発表 ・体験実習 (アイヌ語研修)
第50回	平成22年度	・パネルディスカッション 阿部 一司 氏 (北海道アイヌ協会札幌支部支部長) 鈴木 哲雄 氏 (北海道教育大学札幌校教授) 兼間 昌智 氏 (札幌市立平岡中学校教諭) ・実践発表
第51回	平成23年度	・講演 阿部 一司 氏 (北海道アイヌ協会札幌支部支部長) ・実践発表 ・体験学習 (アイヌ文様づくり)
第52回	平成24年度	・講演 阿部 一司 氏 (北海道アイヌ協会札幌支部支部長) ・実践発表
第53回	平成25年度	・講演 阿部 一司 氏 (北海道アイヌ協会札幌支部支部長) ・実践発表 ・事例紹介 (アイヌ教育相談員を活用した学習)
第54回	平成26年度	・講演 阿部 一司 氏 (札幌アイヌ協会会長) ・実践発表 ・体験実習 (ムックリづくり)
第55回	平成27年度	・講演 阿部 一司 氏 (札幌アイヌ協会会長) ・実践発表 ・体験実習 (ムックリづくり)
第56回	平成28年度	・講演 阿部 一司 氏 (札幌アイヌ協会会長) ・実践発表 ・体験実習 (ムックリづくり)
第57回	平成29年度	・講演 阿部 一司 氏 (札幌アイヌ協会会長) ・実践発表 ・体験実習 (ムックリづくり)
第58回	平成30年度	・講演 阿部 一司 氏 (札幌アイヌ協会会長) ・実践発表 ・体験実習 (ストラップづくり)
第59回	令和元年度	・講演 阿部 一司 氏 (札幌アイヌ協会会長) ・実践発表 ・体験実習 (ストラップづくり)

### 札幌市民族教育に関する研修会の様子

#### (2) 札幌市民族教育研修会の様子 (抜粋)

○平成20年度札幌市民族教育に関する研修会

平成20年度の札幌市民族教育に関する研修会は、平成20年10月7日(火)に札幌市生涯学習センター(ちえりあ)大研修室において、32名の教職員の参加で行われた。

研修会では、北海道ウタリ協会札幌支部長(現札幌アイヌ協会会長)の阿部一司氏より、アイヌ民族の権利回復などについて貴重なお話を伺うことができたほか、国の「重要無形民俗文化財」に指定され



ている「アイヌ古式舞踊」を札幌ウポポ保存会の方々に披露していただくとともに、参会した先生方も一緒になって踊った。

また、この年の3月に発行された「アイヌ民族の歴史・文化等に関する指導資料―第5集―」の活用について、教育委員会民族教育担当より説明があった。

〈参会者の声〉

アイヌ民族の実態について、身近な話を伺えてよかったです。「大人の心では感じられなくても、子どもたちは傷ついていることがある。よろしくお願いします。」ということばに胸を打たれました。心していかなければならないと思います。

○平成22年度札幌市民族教育に関する研修会

平成22年度の札幌市民族教育に関する研修会は、平成22年8月25日(水)に札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)交流ホールにおいて、39名の教職員の参加で行われた。

研修会では、コーディネーターとして、吉川秀樹氏(栄緑小校長)が登壇。パネリストとして阿部一司氏(北海道アイヌ協会札幌支部長)、鈴木哲雄氏(北海道教育大学札幌校教授)、兼間昌智氏(平岡中教諭)が登壇し、「学校における民族教育のさらなる充実に向けて」をテーマに、パネルディスカッションを行った。フロアからも御意見をいただき、次年度以降の民族教育の推進に大きなヒントをつかむことができた。



○平成24年度札幌市民族教育に関する研修会

平成24年度の札幌市民族教育に関する研修会は、平成24年11月9日(金)に札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)交流ホールにおいて、25名の教職員の参加で行われた。

研修会では、阿部一司氏(北海道アイヌ協会札幌支部長)より、学校におけるアイヌ民族の人権や歴史・文化等について学習を進める際の教員が踏まえておかなければならない事柄や考え方、基本姿勢について、お話しいただいた。



○平成28年度札幌市民族教育に関する研修会

平成28年度の札幌市民族教育に関する研修会は、平成28年8月31日(水)に札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)交流ホールにおいて、28名の教職員の参加で行われた。

研修会では、小中学校での5本の実践発表、阿部一司氏(札幌アイヌ協会会

長)による御講演の他、札幌アイヌ協会から6名を講師に招き、「ムックリづくり」の体験学習を行い、アイヌ文化への理解を深めた。



### ○平成30年度札幌市民族教育に関する研修会

平成30年度の札幌市民族教育に関する研修会は、平成30年8月31日(金)に札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)交流ホールにおいて、27名の教職員の参加で行われた。

研修会では、小中学校での3本の実践発表、阿部一司氏(札幌アイヌ協会会長)による御講演の他、札幌アイヌ協会の方々6名を講師に、「アイヌ文様入りストラップづくり」の体験学習を行った。



#### 〈参会者の声〉

講演を通して、明治時代の日本の政策がアイヌ民族の文化を奪い、言葉を奪ったことを再認識しました。詳しい年表も大変興味深いものでした。実践発表では、人物、文様、衣服など具体的な教材が子どもの興味を高め、理解の深まりにつながることが分かりました。後半の体験活動も、アイヌ文化が身近に感じられ、とても楽しい内容でした。

### (3) これからの札幌市民族教育研修会

本研修会は、アイヌ民族の歴史や文化等を尊重する態度を育む指導の充実を図ることを目的として、昭和57年(1982年)から37年間に渡り、継続して実施している歴史ある研修会であり、多くの教職員のアイヌ民族の歴史や文化等への理解の深まりに貢献してきた。

毎回、参会者に、研修会についてのアンケートに回答していただき、その年度の反省資料とするとともに、参会者のニーズを把握することで、次年度以降の方向性を検討する材料としている。アイヌ民族に関する教育を充実させるためには、アイヌ民族の歴史や文化等について教職員が正しい理解を深めることが大切である。この研修会を今後も継続し、アイヌ民族の歴史や文化、指導を行う際の要点等についてより多くの教職員の理解を深め、各学校における指導の充実につながるよう、研修会の工夫・改善をこれからも図っていきたい。



### 3 アイヌ教育相談員の学校派遣、アイヌ民具の貸出事業について

#### アイヌ教育相談員の 学校派遣

#### (1) アイヌ教育相談員の学校派遣

札幌市教育委員会では、民族教育の推進と充実に資するため、札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）内にアイヌ教育相談員を1名配置している。

各学校において、社会科や総合的な学習の時間等におけるアイヌ民族の歴史・文化等に関する学習を行う場合の講師（ゲストティーチャー）として活用することで、アイヌ文化に関する体験的な活動を通して、アイヌ民族の文化等について子どもたちが直接肌で感じることができる。

##### 〈授業での活用例〉

- ・子どもの遊びに関する活動
- ・ムックリ等の楽器に関する活動
- ・アイヌ文様の製作体験活動
- ・アイヌ民族の料理に関する活動 等



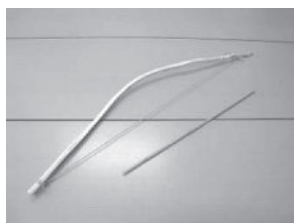
アイヌ教育相談員の派遣を希望する場合は、「アイヌ教育相談員派遣申請書」に必要事項を記入の上、担当宛て提出する。派遣決定後は、授業内容等について、アイヌ教育相談員と事前に十分打合せをし、学習が充実したものになるよう配慮する。

#### (2) アイヌ民具の貸出事業

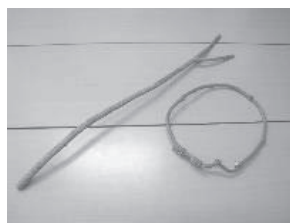
#### アイヌ民具の 貸出事業

札幌市教育委員会では、アイヌ教育相談員の学校派遣の他、各幼稚園・学校における体験的な学習を取り入れた民族教育の推進を支援するため、アイヌ民具の貸出も行っている。

なお、アイヌ民具の貸出を希望する場合は、「アイヌ民具貸出申請書」に必要事項を記入の上、担当宛て提出する。



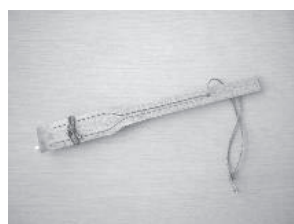
ク（昔のアイヌ民族の弓矢と矢）



カリナ（昔のアイヌ民族の遊具）



マタンシ（アイヌ文様刺繍の鉢巻）



ムックリ（アイヌ民族の口琴）



トンコリ（アイヌ民族の五弦琴）

令和2年度からトンコリの貸出が始まります。ぜひ御活用ください。